

KOZMOS

私は経師屋……………	1
工学部分館長就任の あいさつ……………	2
貴重書から 複製記事 『酒顔童子絵巻』解説…	3
『あやめのまへ』解説…	4
本館所蔵貴重図書修理 につき……………	5
雑誌所蔵目録1981年版…	5
視聴覚資料目録73—80…	6
KOZMOS索引完成…	6
統計から見た図書館…	7
館内だより……………	8

1981 夏 (No. 54)

私は経師屋

得水軒 遠藤隆夫

「経師屋」という職業を御存知ない方も少ないと思う。又、別に表具屋、表具師等とも呼ばれ、床間の掛軸や絵巻物、経巻、屏風、襖、額、帖などに仕立てたり、又、古書画などについても修理を施したりする。又、古くは装演手(匠)、等とも呼ばれ、その源は奈良朝の昔に始まっている。それは仏教が隆盛したその時代、写経を職とした者を写経師と呼び、その写経に必要な料紙をキハダやアイ等の植物染料で染めたり、罫を引いたりした者が経師けいしと言われていた。又、彼らがそれを経巻や折本の形に仕立て上げた訳で、それから、きようじ経師と呼ばれる様になったと言われている。

その後も、引き続き中国より仏教絵画や経典類が渡来されるに当って、同時にそれらの表装の形式や製作技術も、恐らく伝わって来た事だろう。そして、我国のこのような経師の仕事は、この頃より始ったと思われる。従って私達の仕事は、千年以上の長い伝統を持っている訳で、又、多くの先輩達によって守られ、受け継がれて来ている。

掛軸や巻物等は、薄い和紙で何回も裏打がなされ、その仕方によって出来ばえが決まる。裏打の技術そのものは、もちろん重要な事だが、又紙の種類、厚さ、糊の濃さ等を十分吟味しなければならず、これらの事は、やはり先輩から教えられたり、又長い経験からでなければ、中々修得する事は出来ない。とにかく、表装は言わば、裏打その

ものであり、表具屋にとっては、一番大切な基礎技術で、一昔前の表具屋の小僧さん達は弟子入りしても、子守や使い走りをさせられ、すぐには裏打など、教えてもらえなかった様だ。

現在、私達の仕事は、新しい作品について、各各、掛軸や屏風、巻物の様な形に仕上げると言う事は勿論だが、国宝や重要文化財等に指定されている様な古いもの、しかも長い間に化学的、物理的に破損、劣化されたものについて、修復する事が非常に重要な仕事の一つになって来た。とにかく、相手は老衰した病人なのだから、扱うにも細心の注意をはらい、破損の箇所を保存に耐えられる様に、徹底的な修理をしなければならない。そして又、破損箇所の状態というのは、それらの保存環境や、その素材などによって、劣化、破損の状況が各々異って居り、従ってその修理技術も千差万別になって来る。

絵の具の剥落が激しいもの、作品の素材である絵絹や料紙が虫喰や擦れ等により欠失してしまっているもの、軸ものは細く巻かれているため、折れが生じているもの、探せば限りがない。

今回の貴重書類の修理では、やはり酒伝童子絵巻で、主に、折れや破れを直すものだった。一枚の紙を丁寧に、しかも、薄く薄く、むらなく剥いで行かねばならない。相当な根気と細かな技術が必要だった。

絵の具の剥落防止については、一番難しい問題の一つで現在、樹脂系統のものが良く研究され、使われる事も時々あるが、昔ながらの「膠」が良い様に思える。

虫喰などの欠失部分については、繕いをしなければならぬ。絵絹と紙とは異なるが、絵絹の場合、先ず、裏打を新たにやり替えた後、表側より欠失部に似寄りの絹片を、その形通りに刻んで、隙間や重なりなく、丹念に埋め込んで行く。これも非常な忍耐を要し、二ヶ月でも三ヶ月でも、集中的にこの繕いの仕事ばかりを毎日やっていたらなければならない。昔は伏せ裏といい、似寄りの絹で裏打してしまったり、又別の方法で、少し大きめの絹片を裏から繕ったり、熟練した技術も不要で、時間もかからず、一見良い様に思えるが保存を前提に考えると決して良いとは言えない。

この繕い用の絹は、以前までは不要な絵をつぶし、絹目や厚さ、劣化度の似ているものを使ったのだが（これは絵の画面のバランスも保つため）、今ではその数も限られ、探し求めるのに困難になって来た。最近においては良く似た絹を新しく織り、これも放射線である電子線照射によって劣化させてから使っている。（これは日本原子力研究所高崎研の御協力に負う事が大きかった）

何か取り止めもなく、書き綴ってしまったが、とにかく、私は伝統的な技術に基づいた、この仕事に誇りを持つ事が出来る。そして毎日、仕事台の前に座るのが楽しみなのである。何んと幸せな事であろう。

工学部分館長就任のあいさつ

工学部教授 田中平次郎

本年四月から分館長に就任しました。今後よろしくお願いいたします。分館の運営については及川前分館長を始め、長い間にふみ固められた基礎の上に建てられていますから、今更私がなすべきことは何もありませんが、この際一言御理解願いたいことがあります。

それは工業図書館としての一面のあることで、白山図書館の様に古書等歴史的なもの等の蔵書が珍重されるのに対し、日進月歩の我々の世界では、洪水の様な文献の流れに対し、数年もすれば過去の技術となる様なものが少くありません。

そのため索引その他のサービスは恐らく白山の比ではないかも知れず、室はすぐ狭くなる宿命を負っています。加うるに女子職員も多く事務系全体として見ると、とかくその処遇について無視され勝ちな現状であります。

そのため分館関係予算の増加と志気向上の問題が私に課せられた最大の責任であると考へています。如何か皆様のこの面での御理解を厚く御願い申し上げる次第です。

貴重書から 複製記事

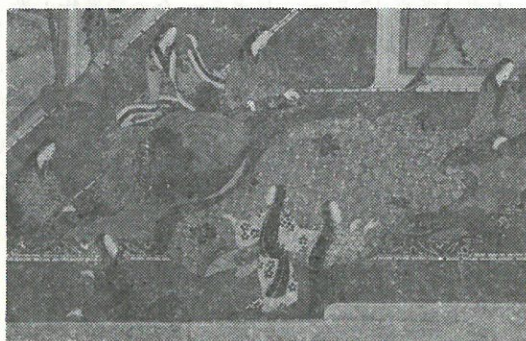
『酒顛童子絵巻』解説

名誉教授 吉田幸一

酒顛童子伝説が、文学史上にあらわれたのは、室町時代の謡曲「大江山」と、それと成立年代が相前後するお伽草子の「酒呑童子」とである。前者は主としてわが中世の武士階級の為、後者は中世貴族の婦女子の為に作られに關係上、叙述の面に相違はあるけれども、ほぼ同時代の所産として内容的には共通点が多く、英雄伝説物語とし

て、以後多くの享受者をもち続け、近世以後には童話の素材にもなって、児童の間にも共感を呼び、近くは「岩屋の外には頼光さん、続いて家来の四天王、酒呑童子はどんな顔、こわごわ覗いて震えてる」とホームソングにまで唱われたように、幾世代にもわたってあらゆる階層の人々に親しまれて来たものである。

さて、この伝説は約一千年前の源頼光(948~1021)が主人公で、その郎等たる四天王達五人を従えて、大江山へ酒呑童子という鬼を退治したという怪物退治譚であり、武人伝説である。それが前に述べたように、謡曲にお伽草子(江戸時代に、お伽草子23篇の1に加えられて板行)に作られて一般に知られるに至ったのであるが、それ以前に先行の「大江山絵詞」または「伊吹山絵巻」と題する一群の作品があったようである。その内容は、鬼の栖家により大江山系と伊吹山系とに分けることができ、しかもそれぞれにいくつかの異本を生じて、今日に諸本を伝えている。ここに提出の本学図書館所蔵『酒伝童子絵巻』は、内容から見て、大江山系の一異本である。



本学貴重書・酒呑童子より

では、どういう点において、異本であるかという点、(異本とは二つ、もしくは二つ以上の本との相対的関係において言えるのだが)例えば、同一系統たるお伽草子の「酒呑童子」と比較して見ると叙述の上かなりの相違が見られるからである。さらには、かかる怪物退治には、武勇による必要があるのはいうまでもないが、そうした勇猛奮闘の具体的な描写はほとんどなく、主として、神仏の加護とか冥助によることが説かれているが、当時の作品の通例となっている。この作品もそれに漏れないが、両本共通の本筋が一応終ってあとに、本書には次の文章が附加されている。

或人申けるは、一条院は弥勒の化現にてましまし、頼光は又毘沙門の化身なり、……酒伝童子は大六天の魔王なり、明君の威法をおとしめ、仏法の為に雙敵となりて、鬼神の寿量

を感せり、是等の次第、皆聖教に説所なり……明王の感徳いとあらはれましますゆへに、薩埵の化現と申あへるも理也、云々

かくして、酒呑童子伝説は、「かの頼光の御手柄、ためし少き弓取とて、上一人より下万民に至るまで、感ぜぬ者はなかりけり」という結末の文句によっても、源氏の嫡流たる頼光を賞讃することを主眼としたものではないかと考えられているけれども、本書によって、この伝説は神明の加護が、神仏の化現という形で、悪魔を滅したという、本地垂迹思想の所産であることも見のがすことができない。

掲出本は、卷子本で全五巻から成り、表紙には「酒伝童子絵(一一五)」「(但し巻二には題簽欠)」とある。紙高32センチ。各巻には大柄な美しい奈良絵が4図乃至7図、合計26図が挿入されている。書写年代は、近世初期、大体寛永年間頃(1624~1643)かと思われる。

この伝説の主人公たる頼光は、源満仲の長子として生まれ、清和源氏の直系であり、摂津多田の地を伝領した。その人物・生涯については、鮎沢寿氏著『源頼光』(人物叢書150)に詳細に解明されている。京阪神急行の宝塚線能勢口駅から、能勢電鉄に乗り換えて、多田駅下車。約1.5キロほど西へ行くと、多田神社がある。その辺りが多田院の跡で、その神社の祭神は源満仲であり、配神として頼光・頼信・頼義・義家が祀られている。頼光は満仲の武士団の一人であり、私的な従者たる郎等を従えていたようである。その四天王については、『今昔物語集』巻第28の第2話や『古今著聞集』巻9武勇第2話に、綱・公時、定道(貞道)・季武の名が見える。そうしたことから、事実上は頼光に酒呑童子退治はなかったとしても、頼光をめぐる説話に中国の『白猿伝』(「説郭」所収。梁の武帝の時、歐陽紇が山中で妻を鬼に奪われたので、これを取り返そうと鬼の栖家におもむき、そこに捕えられている女達とはかりごとをめぐるして、美酒で鬼を酔わせて縛り、退治した話と構想が似ている。)が取り入れられ、また素盞鳴尊の大蛇退治伝説などが加味され、そうしたものが集成されて、そこに酒呑童子退治伝説の構想が成立したのではなかろうか、と見られている

が、まだ定説とは言えないようである。なお、西
顛童子の表記は、伝本によって様々で、「顛」を

「吞」や「伝」としていて、一定しない。

(図書館ニュース No. 12. 1969. 9)

『あやめのまへ』解説

文学部教授 大 島 健 彦

源三位頼政といえば、鶉という怪鳥を射とめた
ことで、その名をうたわれた勇士である。その頼
政が、どうしたことが、「あやめのまへ」という
美女を一目見て、ひたすら恋路に迷う身となっ
た。さっそく歌を詠んで送ったが、そのまま投げ
返される始末に、ますます思いがつのるばかりで
あった。たまたまそのことが上聞に達して、望み
どおり頼政に「あやめのまへ」を賜わるという仰
せを蒙った。ただし、同じような美女を並べてお
いて、そこから相手を選ばせようというのであ
る。そこで、「まこものまへ」という美女を召し
て、「あやめ」と同じ装束で、頼政の前に立たせ
た。思いわずらった頼政は、とりあえず

さみだれに池のまこものしげりあひいづれ
あやめをひきぞかぬる

と詠んだ。「いずれがあやめ、かきつばた」とい
うのと同じで、どれも美しくみえて、見分けがつか
ないというのである。その歌の徳で、ただちに
宣旨が下り、「あやめのまへ」は頼政の手に渡さ
れたと伝えられる。

頼政と「あやめのまへ」との恋物語は、いくら
かその内容を異にしなが、ともに「いづれあや
め」の歌をともなって、『源平盛衰記』巻16「菖
蒲前事」や『太平記』巻21「塩治判官讒死事」に
語られている。最近の研究によると、『太平記』
の記事と一致するものが、『平家物語』佐々木本
の巻4「鶉」の条に発見されている。また、頼政
ではなくて、梶原三郎兵衛という者が、同じよ
うな歌を詠んだと、『沙石集』米沢本などの巻5
「人有感歌」の条に伝えられている。しかし、こ
こに掲げた筋書は、それらの記事によらないで、
本館所蔵の絵巻『あやめのまへ』によったもので
ある。この『あやめのまへ』という作品は、島津

久基博士の絵巻や草子の中で、特に古拙の趣の深
いもので、ほかの伝本が知られていないだけに注
目される。本文は岩波文庫の『続お伽草子』(昭
和31年刊)に収められたが、いまは発行されてい
ない。

本書は紙高 17.5 cm、長さ 5 m 余の絵巻物 1 巻
で、室町中期の書写本である。大和絵の流れを汲
んだ稚拙な絵が 4 面ある。絵詞が絵の部分にまで
入り込んで書かれているのは、桃山時代以前には
よくある例であるが、江戸時代になると、こうし
た現象は全くなくなる。つまり絵と絵詞の部分と
が截然と分かれてしまうのである。

なお、本書は本学所蔵の「松姫物語」について
古い絵巻物として、貴重である。

(図書館ニュース No. 7. 1967. 11)

図書館映写会のお知らせ(6月~12月)

☆白山図書館(場所:第3閲覧室18:00~)

- 6/26(金) さすらいの航海
- 10/23(金) 五つの銅貨
- 11/27(金) 奇跡の人・新版
- 12/11(金) 市民ケーン

☆朝霞分館(場所:230番教室12:25~)

- 6/16(火) 青春の光と影
- 7/14(火) 幸福の黄色いハンカチ
- 10/6(火) キャバレー
- 11/10(火) 旅の重さ
- 12/8(火) デルス・ウザーラ

※場合により1部作品の変更がありま
す。

入場無料。

本館所蔵貴重図書修理につき

図書課長 山内四郎

本館の貴重図書のうち重要なものに故島津久基博士の収集による絵巻物、奈良絵本のたぐいがある。それらの保存状態は決して十全ではなく、絵などの剥離した個所があったり、巻子の表紙や紐が切れていたり、紙の傷みも甚しく、保管のための桐箱もこわれているなど極めて劣悪である。したがって館内はもとより、学内の各所から早急に保存修理のための措置を講ずるよりの声があがったのは当然と言えば当然である。修理に当って業者は、資料の性質に十分留意し、江戸時代以来十数代の歴史をもち、裏打をしても紙が厚くならないという極めて高度の技術を有する東京国立博物館出入りの表具師得水軒に依頼した。

今回第一回の修理分が完成し納入されたので、その修理状況について述べると

- ① 酒伝童子絵巻 1巻、2巻の全面裏打。絵画面修理、太巻き軸作成。3巻、4巻、5巻の完成後は、全5巻収納の二重桐箱を作成することになっている。

- ② 小萩がもと 1帖。帙・桐箱作成。
 - ③ 小式部 2帖。帙・桐箱作成。
 - ④ をこぜ 1巻。帙・軸・桐箱作成。
 - ⑤ あやめのまへ 1巻。全面裏打、絵画面修理、桐箱作成。
 - ⑥ 天雅彦 3帖。帙・桐箱作成。
 - ⑦ 源氏物語鈴虫巻 1帖。表紙修理、由来書のある包紙全面裏打。桐箱作成。
- などである。本年度も引続き依頼し修理を行うことになっている。

折角の修理がなされても、再び同様の状況になることも予想される。したがって平行して、収納する施設の問題を考えなければならない。摂氏20度、湿度60%が適当とも言われている。これが今後に残された課題である。



『東洋大学雑誌所蔵目録

1981年版』ができました

図書については既に全7巻の東洋大学図書館蔵書目録があります。これは80周年記念事業の一つとして昭和47年に計画されたものです。その当時この「蔵書目録」に雑誌を含めるかどうかを検討され、雑誌については欠号補充などの整備をした上で別途刊行するとの方針がたてられました。上記「蔵書目録」完成が年末に見込まれた昭和53年4月より、雑誌目録作成に着手しました。雑誌の場合は誌名のみでなく、その何巻何号を所蔵しているかという事がわからなくてはなりません。その為に一冊一冊現物にあたって確認しながらの原稿作成に2年余を要しています。

収録誌数は5,365点となっていますがこの中には白山本館・朝霞分館(『工学部分館 雑誌目録・

1976年』は別に発行済)のみでなく、学内各研究所・室で所蔵されている雑誌も含まれます。残念なことに、国文研究室と経済・経営各研究所の一部雑誌は未収録となっています。

目録の構成は、本文を和漢雑誌篇と洋雑誌篇とにわけ、それぞれ誌名のABC順に並べてあります。巻末に主題別索引とISSN—誌名対照表を付しました。主題別索引では特に「東洋大学関係」として本学で発行の逐刊・紀要類をまとめてあります。詳しい使い方は目録の「凡例」を参照して下さい。

加除訂正、更新可能なカード目録と違って、冊子体の目録は刊行と同時にその内容が古くなるという宿命を負ってはいますが、相互協力、複写など利用のされ方も多様になっている現在、カード目録とは別な多くの長所を充分發揮して、雑誌が利用しやすくなる一助になれば幸いです。

『視聴覚資料目録1973—1980』

(白山) 発刊のお知らせ

<収録範囲は>

この程簡易版という形式ですが、視聴覚室所蔵の資料目録ができました。収録範囲は昭和48年より55年3月まで約7年間にわたって収集したレコード、録音テープ、スライド、ビデオテープそしてフィルム資料で総タイトル数は約4000位です。

<使い方のポイントは>

何分にも簡易版ということで、色々な主題のもとにどんな資料形態及び資料があり、そして簡単に標題(タイトル)から探せる索引をと心掛けました。以下、使い方のポイントを列記すると、

1. 図書と同様、日本十進分類表に従い主題順に、しかも資料形態ごとに資料を探せます。
2. 資料を視聴する際の目安として、それぞれの資料に時間、枚数などの数量を記してあります。読み方は凡例を参照して下さい。
3. 音楽資料の記載は一般的に、平易な楽曲形式、分野で分けてあり、クラシック音楽の作曲者名も日本語名で年代順に並べました。
4. 索引は、フィルム、ビデオ、スライド、録音テープ&レコードの四種に分けて、それぞれ

れ標題のアルファベット順に排列してあります。また音楽資料は個々の作品を分出してありますので、細かに作品を探す場合は索引をお使い下さい。

資料を視聴するには

皆さんはこれらの資料を個人利用や団体利用、また館外貸出サービスなどで利用できます。ただし以下の点に注意して下さい。

個人利用 開室時間/月一金 p.m.2:00~5:00 (※団体利用なき場合 a.m.9:30~12:00も可)、毎週火・木 p.m.6:00~8:00 対象資料/レコード、録音テープ、ビデオテープ、スライド

団体利用 開室時間/月一土 a.m.9:30~12:00 (5名以内であれば 月一金 p.m.2:00~5:00も可) ※学習の意図が明確なことを要します。午前中使用の場合は前日までに予約して下さい。

館外貸出 受付時間/月一土 a.m.9:30~12:00、月一金 p.m.2:00~5:00、毎週火・木 p.m.6:00~8:00 貸出期間/語学資料 1ヶ月、その他は1週間。一般図書を含め3点まで。※ただし音楽資料は保存用が主で貸出用は目録本文の後、‘その他貸出用音楽レコード’とあるもの、新規分を加えて257枚あり2点まで貸出。

東洋大学図書館 ニュース

KOΣMOΣ

索引(創刊~49号)完成!!

創刊以来15年を数える「東洋大学図書館ニュース KOΣMOΣ」の索引が、本年三月に出来上がりました。タイプ印刷で、B5版、本文46ページの小冊子です。

内容は、図書館ニュースに載った記事の執筆者名をアルファベット順に並べた“執筆者索引”と同一内容の記事を項目別・掲載号順に並べた“項目別総目次”とに分かれます。

“執筆者索引”は、例えば皆さんの良く知っている先生が、図書館ニュースにどんな記事を寄せられているか、またどのような本の紹介をなさっているかを調べる時に有効です。

また、“項目別総目次”は、この間の図書館の

歩みや動きを知りたいとか、随筆的な記事だけまとめて読みたいとか、あるいは、どの号にどんな写真や挿し絵が入っていたかを知りたい時などに、役立つと思います。

単に索引本体に戻る機能だけでなく、「図書館ニュース KOΣMOΣ」の全体像をつかむ手掛かりになるような索引づくりを心がけました。どうぞ御利用下さい。また残部が少々ありますので御希望の方には差し上げます、各図書館カウンターまでお申し出下さい。

教職員のみなさんへ

白山・朝霞分館では、ノートによる貸出を行って来ましたが、今年6月より、カードによる貸出方法に変更となりました。詳しくは図書館カウンターまでお尋ね下さい。

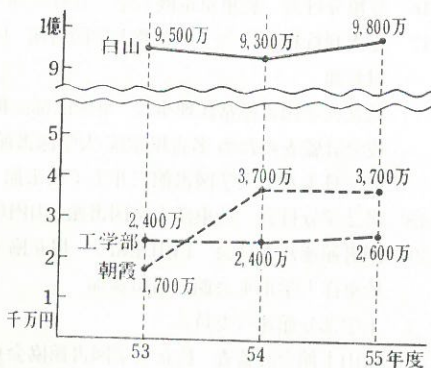
統計から見た図書館——昭和55年度

I 資料の購入

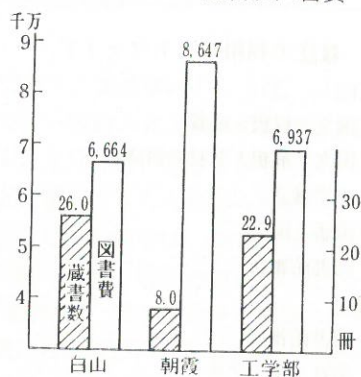
I-1 所蔵数 (昭和56年3月31日現在調べ)

	55年度増加図書数			総所蔵数		
	和	洋	計	和	洋	計
白山	12,480	4,274	16,754	272,767	122,682	395,449
朝霞	5,614	671	6,285	32,993	1,223	34,216
工学部	2,031	1,529	3,560	50,121	35,675	85,796
計	20,125	6,474	26,599	355,881	159,580	515,461

I-2 図書費

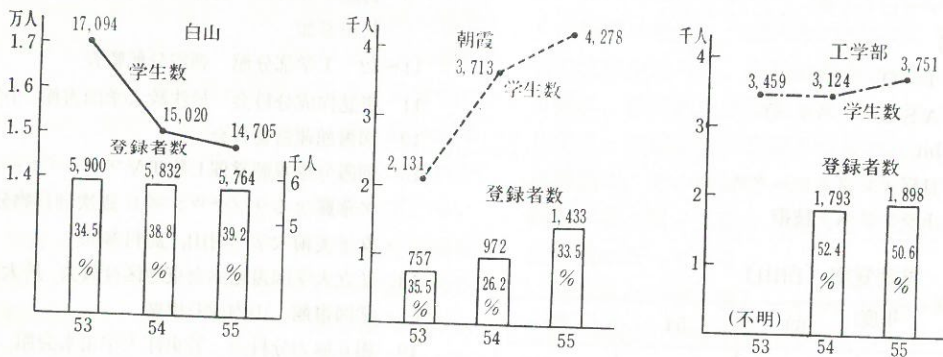


I-3 学生一人あたりの蔵書数図書費

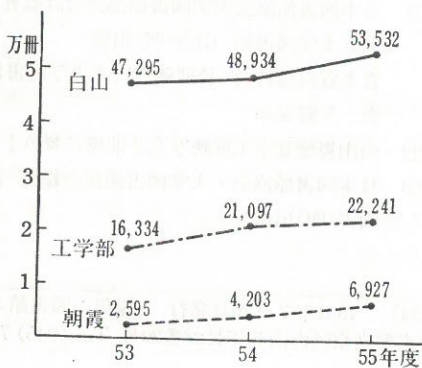


II 利用

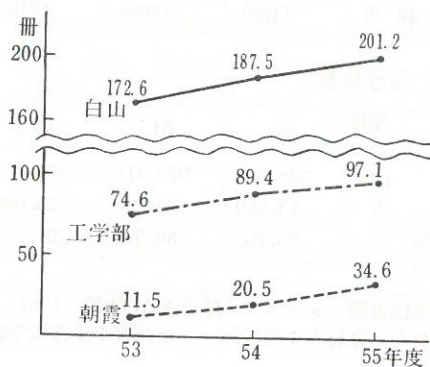
II-1 登録者、登録率



II-2 館外貸出総冊数



II-3 1日平均館外貸出冊数



II-4 学生1人当りの館外貸出冊数

館	年度	53	54	55
白 山		2.5冊	3.0冊	3.7冊
朝 霞		1.2冊	1.1冊	1.6冊
工 学 部		4.2冊	5.3冊	5.5冊

II-5 参考質問, 相互協力

昭和55年度	閲覧依頼	受 付	文献複写 依 頼	受 付
白 山	322	80	258	299
工 学 部	8	38	325	126

II-6 雑誌の利用ベストファイブ

白 山

1. 国文学解釈と鑑賞
2. 国文学解釈と教材の研究
3. 史学雑誌
4. 国語と国文
5. 図書館雑誌

朝 霞

1. 図書館雑誌
2. 朝日ジャーナル
3. 週刊東洋経済
4. アサヒカメラ

工学部

1. I/O
2. ASC (アスキー)
3. bit
4. 日経エレクトロニクス
5. トランジスタ技術

II-7 視聴覚室(白山)

年度	53	54	55
開 室 日 数	136	140	146
利 用 件 数	3,463	2,576	2,913
夜 間 利 用	(159)	(208)	(246)

II-8 複写枚数

館	年度	53	54	55
白 山		338,038	372,418	574,737
朝 霞		14,669	36,235	25,646
工 学 部		95,262	88,592	91,816

館内だより(81.4/1~5/28)

4. 1 工学部分館長に田中平次郎教授就任
- 2 私立大学図書館協会東地区部会事務引継
於玉川大学図書館 山内(四), 小島, 池田
- 3 私立大学図書館協会常任理事校事務引継
於立命館大学図書館 山内(四), 池田
- 6 私立大学図書館協会東地区役員会
於玉川大学図書館 山内(四)
- 13 書誌作成分科会 於拓殖大学図書館 小笠原参加
- 14 角川書店 高取利尚氏貴重書撮影のため来館
- 16 分類分科会 於東京電機大学 日野参加
- 17 逐次刊行物分科会 於立教大学図書館 村山, 島村参加
私立大学図書館常任理事校 東地区部会担当理事
校会計監査のため名古屋学院大学図書館 永井良
三, 日本女子大学図書館三井圭子氏来館
- 18 書誌学分科会 於東洋大学図書館 山内(四)参加
- 21 図書館運営委員会 白山連絡会 相互協力分科会
於東洋大学浦水会館 村田参加
5. 7 工学部分館運営委員会
- 8 白山本館会計監査 私立大学図書館協会東地区連
絡懇話会 野村館長, 山内(四)参加
- 9 書誌学分科会 於神奈川大学図書館 山内(四),
村田参加
- 11~12 工学部分館 朝霞分館監査
- 11 書誌作成分科会 於法政大学図書館 小笠原参加
- 12 図書館運営委員会
- 15 朝霞分館視聴覚催し物TVアワー「ポールモーリ
ア華麗なるラブサウンズ」逐次刊行物分科会 於
女子美術大学 村山, 島村参加
- 18 私立大学図書館協会東地区役員会 於大妻女子大
学図書館 山内(四)出席
- 19 相互協力分科会 於東洋大学浦水会館 村田参加
- 20 分類分科会 於中央大学図書館 日野, 直井参加
- 21 日本図書館協会大学図書館部会会計監査 於横浜
国立大学図書館 山内(四)出席
音楽資料分科会 於武蔵野音楽大学図書館入間校
舎 矢野参加
- 22 白山視聴覚室主催映画会「北壁に舞う」
- 28 日本図書館協会・大学図書館部会総会 於同協会
山内(四)出席